

## 大学と連携した毛筆書写指導

—書道研究室の学生の姿を学習材として—

白井 敬

### 1. はじめに

「習字いつやるの?」、子どもたちの元に5月の参観日に親子で見ながら注文した習字セットが届いたのだ。担任している3年生37名のうち、習い事として習字に通っている児童は1名のみであり、ほとんどの児童にとって毛筆と初めての出会いとなる。目を輝かせて習字セットを受け取る姿に、「子どもたちと毛筆の何と出合わせたいのか考えたとき、「毛筆の特性」「毛筆で書くことの面白さ」「毛筆から生まれる線の美しさ」「書く姿の美しさ」など、「毛筆で書く」ということの中に、いかに多くの価値があるのか気づかされた。そして、それは自分にはできないことだった。

本堂に魅力が伝えられる人と出合わせたい。その時、頭に浮かんだのが、書道研究室のことだった。書写を専門に学び続けたいと出会うことによって、子どもたちは、「毛筆の特性」「毛筆で書くことの面白さ」「毛筆から生まれる線の美しさ」「書く姿の美しさ」を、部分ではなく全体として感じ取るのではないだろうか。つまり、書道研究室の学生の書く姿そのものを、児童が毛筆で書くことの学習材(価値に気づくきっかけ)としたいと考えた。以上のような思いから、書道研究室の小林比出代先生にご指導を仰いだ。

### 2. 授業に向けて

授業の一週間前の6月12日(月)に、小林先生と書道研究室の学生2名と授業内容について打ち合わせを行った。持参した指導案を元に授業のねらいと流れについて確認しながら、「まずは、毛筆をさわったりほっぺにさらさらしてみたり、筆に触れ遊ばせたり、筆の弾力を感ずることから入りたい」とか書かずに、筆と鉛筆の違いを比べてみたら」など、ご指導いただきたい。かそれに伴って、指導案では「用具の扱い方を確認する」としいか書かずに、変わっていった。また、この授業の学習材である「学生の書姿」でもBigPadに映して焦点化して伝えることや、練習用紙の内容などもアドバイスをいただき、これまで知らなかった書写の指導のポイントを学ぶことができたと共に、当日の授業のイメージが明確になっていった。

打ち合わせの後、指導案を改めて作成し、小林先生にお送りした。

### 3. 指導案と実際の授業の様子

#### 国語科学習指導案

平成 29 年 6 月 19 日（月）第 1, 2 校時  
 3 年 2 組 男子 18 名 女子 19 名 計 37 名 授業者：白井 敬  
 題材 「どうしたらなかよくなれるかな 初めての筆」

#### 学習のねらい

毛筆との出合いを楽しみにしている子どもたちが、書道研究室の学生と共に字を書くことを通して、筆の穂先の太さが変わるこ変るとや穂先が動くことに気づき、どうしたら穂先の太さや動きをえながら字を書くことができるのか考えながら書くことができる。

#### (1) 本時の学習材

書道研究室の学生の姿

- 毛筆との出合いを楽しみにしている子どもたちは、道具の使い方や置き方などを確認した後、すぐに書き始めようとするだろう。その意識を捉えたところで学習材を提示する。
- 本学習材は、書道を専門として学ぶ学生たちの書く姿である。実際に書く姿を見たり、ビデオカメラで学生の穂先の動きや筆の様子、腕の動きなどを拡大したものを見ることによって、子どもたちは、筆の扱い方や穂先の動きの特性、書くときの姿勢などに気づいていくだろう。

#### (2) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1 筆と出合い、用具の扱い方を確認する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     学習問題                      毛筆となかよくなりた                      いな                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆も固いんだな。</li> <li>・ 筆をほぐして使うんだ。</li> <li>・ ほぐすとふわふわしているよ。バネみたいにはね返るね。</li> <li>・ 毛の一本一本が広がるんだね。</li> <li>・ 道具の並べ方があるんだな。</li> <li>・ 書くときの姿勢の合言葉があるんだ。面白いな。</li> <li>・ 鉛筆と違う持ち方なんだな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準備ができたから早く書きたいな。</li> </ul>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筆と出合い、用具の配置や扱い方、名称の確認をする。</li> <li>・ 「筆と鉛筆はどこが違うかな」と問いかけ、筆の特性に目を向けさせる。</li> <li>・ 拡大した配置図や道具の名称を書いた模造紙などを用いて視覚的に分かるようにする。</li> <li>・ 墨汁は入れない。</li> </ul>

展 開	2	書く姿 から分 じとえ たと表 う。 自感こ 考こ発 合	<p>学習課題 毛筆を使って書いてみたいな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢が格好いい。</li> <li>・書く前に筆をきれいに</li> <li>・筆とがらせている。</li> <li>・筆をまっすぐにしてい</li> <li>・筆をよ。</li> <li>・ゆるくうごかしてい</li> <li>・ゆるるとろと速く動かし</li> <li>・ているところがある。</li> <li>・筆の先がバネみたい</li> <li>・動いていよ。</li> <li>○筆が自由に動けるよう</li> <li>にたしもあるんだね。わ</li> <li>な。書いてみたい</li> </ul>	10	<p>○学習材を提示し、書く姿を見つめる。</p> <p>○場を設ける。</p> <p>・児童の席(四隅)で書いてみる。</p>
					<p>学習材</p> <p>書道研究室の 学生の姿</p> <p>・ビデオで拡大して提示する。</p> <p>・学生が書く姿から子どもたちが気づいたときを、つぶやき取り上げ全体に共有する。</p>
終 末	3	ワーク シート に実際 に書い てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太くなってしまうって線</li> <li>がくっついてちゃう。細</li> <li>くすって難しいな。</li> <li>・うまく筆が回らないよ。</li> <li>・ジグザグは途中で止め</li> <li>るとやりやすいぞ。</li> <li>・横画がペタっとし</li> <li>ちゃう。</li> <li>・先生たちはどうやって</li> <li>書いているのかも一</li> <li>回見たいな。</li> <li>・回すときは筆を持ち上</li> <li>げていってるんだ。</li> <li>・毛筆って難しいけど楽</li> <li>いな。</li> <li>○筆と相談しながら書け</li> <li>るよ。話しなりたいな。</li> <li>次は字を書いてみたい</li> <li>な。</li> </ul>	30	<p>・ワークシート 渦巻き、ジグ ザグ、横画 (事前に配 布し記名 しておく)</p> <p>・学生の皆さん には一緒に 机間指導し ていただく。</p> <p>・必要に応じて 書く姿を全 体に提示す る。</p>
	4	本時の 追振り を返す 時、課 題確認 をする。		10	<p>評価</p> <p>どうしたら徳先を自 由にうごかしなが ら字を書くことが できるのか考 えながら書 くことができた か。発 言やワークシ ートか ら捉える。</p>

	5 用具の 片付け と作品 の掲示		20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が一番納得した作品を一枚、先生に手渡す。</li> <li>・作品のよさを捉え、一人一人に声をかける。</li> <li>・作品は、その場で掲示していく。</li> <li>・片付け方を掲示し、説明する。</li> </ul>
--	----------------------------	--	----	---

#### 4. 考察と今後に向けて



学生が書き始めた瞬間、子どもたちの目は画面に釘付けになった。ポイントとなる部分をズームアップして映していくと、「いい姿勢」、「筆がまっすぐ」と、教師が指導したい点を子どもたち自身が言葉にしていた。



子どもたちの「自分も書きたい」という意欲が高まったところで、ワークシートに書き始めるように指示した。渦巻きのところ曲線を書くのに苦労している様子を捉えて、改めて学生の書く姿を子どもたちに提示した。渦巻きの時の穂先の動きに焦点を当てて、回すときに筆を少し持ち上げている様子をよく見えるようにした。



学生には、子どもたち一人ひとりに対して、手を取って筆の動きを指導してもらった。子どもたちは、手を通して筆の動きを感じることができていた。

以下、子どもたちの日記から感想を紹介したい。

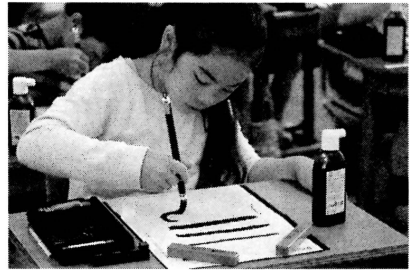
今日の1，2時間目に初めての習字がありました。私は最初この授業でどんなことをするのか、どういうふうになれば字が上手になるのかな、そう思ってとても楽しみにしていました。立派な習字の先生たちも来てくれて、なんだかドキドキしました。太い筆一本で細さを変えたりするのはとっても難しかったです。次の授業も楽しみです。(A児)

今日，1，2時間目に習字をやりました。私は最後に書いたのがとても上手に書けました。どうして上手に書けたかという、筆を立てて書いたからです。また明日もやるのでそれが楽しみです。(B児)

今日，習字を初めてやりました。使い方を習いました。筆で字を書くのは楽しかったです。何か鉛筆と違った感じでした。持ちづらいと思いました。習字をやると字をきれいに書きたくなりました。たくさん練習して心がすっきりしました。(C児)

今日，5時間目に習字をやりました。M先生が筆は縦にして穂先は柔らか斜めと教えてくれました。そういうふうにしたら最初よりもきれいにできていてうれしかったです。(D児)

成果として，書写を専門的に学んでいる学生の姿は，子どもたちが自分でポイントに気づいていくことや，いい筆の動きを体感することに有効であったことが挙げられる。



課題としては，筆を持つ場所，墨の量，筆を置く場所など，教師が映す際に意識していなかった点は，子どもたちに伝えられなかったことだ。今回，事前に指導のポイントの打ち合わせをしたつもりだったが，自分たちが常識だと思っている点は抜けてしまうことがある。ゲストティーチャーを招くことで，子どもたちに何を伝えるのかは，教師の教材研究にかかっている。

(しらい たかし 信州大学教育学部附属長野小学校)